

社会福祉法人大樹福社会

平成29年度 事業報告書

I 法人の現況

1. 平成29年度の活動状況総括

(1) 事業経過及び成果

平成29年度の法人全体の収益は、2年連続で事業収支差額は伸び、現金も700万円ほど増加し、過去最高の現金預金額となりました。ただ、人件費率（人件費を障害福祉サービス等事業収入で割ったもの）は80パーセント（昨年度80パーセント）となり、本来正常な人件費率は65パーセント前後であることを鑑みると、平成30年度も経営努力が求められます。

生活介護事業は、福祉事業としては安定した収益をあげています。より質の高いサービスが提供できるよう、新しい取り組みにも挑戦しています。

就労継続支援A型事業ではH29年4月に制度改正があり、「生産活動に係る事業の収入から生産活動に係る事業に必要な経費を控除した額に相当する金額が、利用者に支払う賃金の総額以上となるようにしなければならない。」とされ、経営改善の見込みがない場合や指定基準を満たさない場合は、A型事業の存続が難しい状況となっています。香川県においても、A型事業を廃止、休止をする事業所もある中で、自立支援協議会のA型検討委員会にて、さまざまな視点からの取り組みにも参加しています。当法人のA型事業においては、就労事業の安定に向けての取り組みを重ねていますが、福祉サービス事業と就労事業のバランスには課題のある状況でした。

就労継続支援B型事業では、平均利用人数の増加により、福祉事業収入は安定傾向でしたが、年度末からH30年度にかけて、ご家庭のご都合により契約終了となる方が相次ぐため、今後、福祉サービス事業の安定への取り組みが必至です。一方で開所以来はじめて、A型1名、B型1名の方が関係機関と連携しながら、一般就労に就かれました。平成30年度の障害福祉サービスの改定では、就労系サービスにおける一般就労への移行促進は大きな柱の一つとなっています。当法人でも、今年度より施設外支援にも取り組んでいます。今後、さまざまな機関と連携しながら、一般就労の促進を図っていきます。

法人全体の体制としては専従のサービス管理責任者をもう1人立てることによって、60名以上の利用者契約数を可能にし、また法人の発展に向けた組織体制作りを目標に掲げ取り組んできました。今後も利用者の方々やご家族の方々のニーズに対応できるような組織づくりに向けて、さらなる前進に努めていきます。

各年度の事業収支差額、資金収支差額、現金と人件費率

	事業収支差額	資金収支差額	現金	人件費率	備考
22年度	3,017,110	2,950,589	2,010,060	77	生活介護、B型スタート
23年度	10,205,060	8,986,187	7,035,312	63	
24年度	17,198,521	14,535,831	18,739,238	59	
25年度	3,949,242	-5,997,887	14,472,556	78	サン樹オープン
26年度	3,446,594	-3,579,565	9,528,640	77	新会計ルール適用 カフェセルプ開始
27年度	-2,786,312	2,382,480	12,154,063	87	樹オープン 1,000万借入
28年度	9,224,532	6,800,532	19,200,859	80	樹の子オープン 「サン樹」リニューアル
29年度	9,727,511	5,803,511	26,142,746	80	

(2) 平成29年度重点項目

① 新社会福祉法人制度に基づく新体制の発足と取組

社会福祉法人制度改革では、平成29年4月1日に新評議員会が発足し、同6月25日に松田あみこ理事長を中心とした6名の新理事会が立ち上がりました。また、評議員会は、地元在住の弁護士、監事などで構成発足した評議員選任・解任委員会により、新評議員4名が選任されました。なお、大樹福祉会の場合、評議員の定員は7名で、新制度により当面は4名の評議員で対応できますが、平成32年度には評議員7名となるため、2年後に向けた評議員候補をできるだけ早く決めておく必要があります。

② 事業別の財務状況の評価とそれに基づく対応

当法人は4か所において、3つの福祉サービス事業（生活介護・就労継続支援A型・同B型）の中で4店舗の営業を行っております。これまで、福祉サービス事業や事業者指定の単位、店舗等が混在する状況となっており、平成28年度までは、事業者指定の単位を視点とした計算書類となっていました。平成29年度は福祉サービス事業を視点とした計算書類となるよう、大幅な整備を

行いました。特に就労系サービスにおいては、就労会計が安定するよう会計上の整備を行うとともに、様々な面で整理に取り組みました。その結果、就労部分においては A 型は約 80 万の黒字、B 型は約 200 万の黒字となりました。一方で店舗ごとの収支が計算書類上では把握できないため、今後、店舗ごとの収支を把握し、安定した経営となるような対応が必要とされます。

(3) 職員について

当法人の職員数は平成 30 年 3 月 31 日時点で、正規職員 15 人、パート職員 15 人の計 30 人となっています。この内、正規職員については、毎月第 2 金曜日に職員会議を開催し、感染症、虐待防止等の研修を実施し、職員の資質向上に努めています。

また、施設外で開催される研修会を適時紹介し、自主的に参加するよう促しています。職員全体に周知できるよう、文書において会議内容の伝達や催し物等を紹介しております。

平成 29 年度の研修内容は、次のとおりでした

① 内部研修（職員会議）

- 4 月 障害者差別解消法について
- 5 月 キャリアアップシートについて
- 6 月 食中毒及び食品安全衛生について
- 7 月 虐待防止について
- 8 月 工賃向上について
- 9 月 就労支援事業について
- 10 月 災害対策について
- 11 月 感染症予防について
- 12 月 障害種別ごとの対応方法（Ⅰ）知的障害について
- 1 月 障害種別ごとの対応方法（Ⅱ）強度行動障害について
- 2 月 障害種別ごとの対応方法（Ⅲ）精神障害について
- 3 月 今年度のふりかえり

② 外部研修

開催月	研修会名	場 所	参加職種	参加人数
6月	安全運転管理者研修	かがわ自動車学校	副管理者	1
6月	安全衛生管理講習	香川労働基準会館	副管理者	1
7月	平成29年相談支援従事者初任者研修	香川県立文書館2F	生活支援員	1
7月	社会福祉法人役員等研修会	県社会福祉総合センター	理事長・管理者・副管理者	3
8月	平成29年度リスクマネジメント研究会	県社会福祉総合センター	副管理者	1
9月	精神・発達障害者しごとサポート	県社会福祉総合センター	目標工賃達成指導員	1
9月	苦情解決事業研修会	香川県民ホール	副管理者	1
11月	平成29年度管理職員研修会	県社会福祉総合センター	副管理者	1
11月	人事労務管理セミナー	県社会福祉総合センター	副管理者	1
11月	サービス管理責任者等研修・介護分野	香川県立川部みどり園	生活支援員	1
12月	サービス管理責任者等研修・就労分野	香川県立川部みどり園	生活支援員	1
1月	苦情担当者会議	県社会福祉総合センター	副管理者	1
1月	障害福祉セミナー	香川県立文書館	副管理者	
2月	障害者職業センター研修	県障害者職業センター	生活支援員	1
2月	災害支援福祉セミナー	県社会福祉総合センター	副管理者	1

II 保健衛生管理等

1 感染症予防について・食中毒及び食品安全衛生について研修の実施

2 感染症について

1月下旬に施設内でインフルエンザ罹患者14名

(利用者10名、職員4名)

1月18日に1名、19日に4名の利用者の方の感染が確認され、蔓延を防ぐため

19日の午後より休みとし、20日は臨時休業にて対応しました

3 事故報告

高松市に3件の作業中の怪我により事故報告を行いました

III 防災関係

5月 防災訓練(南海トラフ地震) 東部運動公園にて引継訓練も実施

7月 火災による消火・避難訓練

- 1 1月 防災訓練（地震） 香川県シェイクアウトに参加
- 3月 火災による総合訓練

IV 行事

- 4月 お花見
- 5月 野外活動（生活介護）
- 8月 サンサン夏祭り
- 1 1月 サンサン夢バザー
野外活動（生活介護）
- 1 2月 日帰り旅行（徳島）
クリスマス会
- 1月 初詣
- 2月 野外活動（B型）

V 事業ごとの報告

1 生活介護事業

- 場 所 高松市春日町813番地の10
- 定 員 15名
- 職員数 生活支援員5名（うちパート1名） 看護師1名（週に1日勤務）
医師（月1回勤務）

事業内容

① 介護

利用者様の個々のニーズに応じた、食事及び排泄などの介護を行い、日常生活の自立に向けた支援に取り組みました。

② 創作活動及び生産活動

利用者様個々に活動や生活の中での目標を持っていただき、自主性と忍耐力を養うとともに、社会的自立への意欲と積極性が身に付くような支援に努めました。

ア 商品の販売準備

イ 注文先への配達及び対面販売

ウ 商品の広告・宣伝活動（チラシ作り）

エ 軽作業

ボルト・ナットの袋詰め作業及び納品

ポップコーンの製造と袋詰め作業及び納品

木工製品、タイルアートの制作、販売

オ 農作業（各種野菜等の定植、収穫等）

カ 行事計画表・広報誌等の作成

③ 健康管理

嘱託医師の定期的な健康指導の下、利用者様の日常の健康状況を詳細に把握するとともに、看護師による定期的な健康チェックを行いました。

④ 訓練

利用者様のニーズと体力に応じた訓練と身体ケアを行い、身体機能の向上に努めました。

⑤ 送迎

送迎サービスを行い、自立した日中活動を支援しました。

(2) 利用者数

	延利用人数	開所日	平均利用人数
4月	346	22	15.8
5月	382	23	16.7
6月	372	22	17.0
7月	373	23	16.3
8月	354	22	16.1
9月	362	22	16.5
10月	377	23	16.4
11月	357	22	16.3
12月	380	23	16.6
1月	299	22	13.6
2月	324	20	16.2
3月	355	23	15.5
計	4,281	267	16.1

(3) 軽作業収入及び工賃総額の推移

単位 円

	軽作業収入	工賃総額※
4月	37,475	173,600
5月	38,405	150,900
6月	90,180	177,620
7月	67,070	173,900
8月	80,205	145,880
9月	72,065	188,210
10月	58,410	164,680
11月	77,543	170,660

12月	52,990	181,460
1月	55,540	137,340
2月	59,110	141,660
3月	51,715	155,840
計	740,708	1,961,750

※賞与及び皆勤賞を除く

(4) 現況と今後の課題

当法人において、生活介護事業は安定的かつ高い利益率を維持しています。軽作業については、ボルト・ナット袋詰め作業の受注量に変動があり、納期に追われることもありましたが、作業量を少しずつ調整し、安定して取り組める作業の開拓を行いました。新規作業として、ポップコーン製造・販売、タイルアート作業などを始め、昨年より年間50万円の収益増となりました。また年々、利用者の方の障害種別や能力の幅が広がり、ケア面での充実がさらに必要となっています。次年度は、軽作業とともに、農作業などの野外活動等、利用者様のニーズを念頭に置きつつ、身体ケアや個別ケアの充実をめぐるための取り組みを行っていきます。

2 就労継続支援A型

定員 10名

(1) 事業内容

カフェ店舗でのモーニング及びランチ等の接客及び調理

(2) 利用者数

	延利用人数	開所日	平均利用人数
4月	88	22	4.0
5月	84	23	3.7
6月	83	22	3.8
7月	85	23	3.7
8月	80	22	3.5
9月	65	22	3.0
10月	69	23	3.0
11月	66	22	3.0
12月	66	23	2.9
1月	66	22	2.9
2月	58	20	2.9
3月	69	23	3.0

計	879	267	3.3
---	-----	-----	-----

(3) 利用者給与の推移

	給与総額
4月	186,120
5月	133,695
6月	151,650
7月	148,118
8月	124,128
9月	142,695
10月	121,080
11月	117,324
12月	118,170
1月	107,100
2月	117,390
3月	110,430
計	1,577,900

(4) 現況と今後の課題

A型事業という難しさはありながら、個々の就業スキルが向上するよう取り組みました。1名の方が一般就労に移行され、利用者数は減少しましたが、就労系サービスとしての役割を一つを担うことができました。賃金に関しては、以前、最低賃金減額の特例許可申請を申請している状況です。利用者の方のスキルアップを行うと同時に収益を高め、賃金の向上に努めていくことが課題です。

3 就労継続支援B型

定員 25名

(1) 生産活動

就労への意欲を高めるとともに、職業的な自立を促進するため支援に努めました。

ア パン・お菓子の製造・販売

材料の計量・準備・調理

製造用具の管理

製品の包装及び販売準備

店舗及び販売先での接客、受注先への配達

イ 軽作業 箸袋入れ等

- ウ 農作業 作物の定植、草抜き、収穫
- エ 高松市役所内ふれあいの店でのパン等の販売

(2) 就労支援

利用者の就労に対する意向及び適性を判断し、幅広く仕事を体験してもらうことで自信をもって、ステップアップできるよう支援を行いました。

(3) 健康管理

心身の状況の変化に留意しつつ助言その他の援助を行い、利用者の健康に対する自己管理能力が高まるよう支援に努めました。

(4) 利用者数

	延利用人数	開所日	平均利用人数
4月	584	22	26.6
5月	612	23	26.7
6月	603	22	27.5
7月	574	23	25.0
8月	565	22	25.7
9月	593	22	27.0
10月	586	23	25.5
11月	569	22	25.9
12月	574	23	25.0
1月	514	22	23.4
2月	511	20	25.6
3月	559	23	24.4
計	6,844	267	25.7

(5) 工賃の推移

	工賃総額※
4月	516,640
5月	432,440
6月	580,960
7月	495,730
8月	404,750
9月	542,140
10月	468,540
11月	476,300

12月	494,690
1月	389,790
2月	432,480
3月	438,430
計	5,600,890

※賞与及び皆勤賞を除く

(6) 現況と今後の課題

香川県の平均工賃は14,673円(H28)、全国は15,295円(H28)の中、当法人は16,095円となっています。平均工賃の算出方法は、当法人の特色からは不利となる面が多い中、平均賃金よりを上回ることができています。また、1名の方が一般就労に移行されました。しかし、自立した生活を送るためには、さらなる工賃向上への取り組みが必要とされています。就労スキルのアップとともに工賃向上につなげられるよう取り組んでいくことが課題とされます。また、就労面だけでなく、生活面での自立に向けた関わりも充実できるよう支援者のスキルの向上も課題となっています。

VI 就労支援事業店舗ごとの報告

1 主たる事業所 サン

場所 高松市春日町813番地の10
事業内容 パン・焼き菓子の製造販売
軽作業・農作業等

パン事業収入及び軽作業収入

	パン事業収入	軽作業収入
4月	2,231,199	30,000
5月	1,938,583	31,000
6月	2,028,675	29,000
7月	1,937,684	24,000
8月	1,650,908	22,000
9月	1,969,399	19,000
10月	1,895,331	17,000
11月	2,039,826	17,000
12月	1,822,208	15,000
1月	1,647,096	14,000
2月	1,735,469	19,000

3月	1, 876, 193	23, 900
計	22, 772, 571	260, 900

現況と今後の課題

季節ごとのフェアの開催や、毎週火曜日の2割引での販売は、店舗の宣伝効果につながっています。以前より課題であった職員の超過勤務については、売上を抑えることで改善に向かいつつあります。また、残品数を把握し製造数に活かしていくなど、製造の効率化にも取り組みました。しかし、店舗での売り上げは曜日によってムラがあり、特に月曜日は収益的に少ない状況にあります。売り上げに対する意欲は非常に高いのですが、売り上げの減少と比較した利益率の面で課題が見られます。また、ミスは減少傾向にありながらも、パンの焼き上がりの遅延や砂糖等の投入失念、異物混入などがありました。今後、労働面、店舗・販売管理、在庫管理、製造管理等々、管理体制の強化が課題となっています。

2 出張所 カフェ・樹の子

場所 木田郡三木町大字氷上310番地 三木町防災センター1階
事業内容 三木町防災センター1階カフェでのモーニング、ランチ、弁当の販売

「カフェ・樹の子」売り上げ

	喫茶事業収入
4月	894, 620
5月	887, 120
6月	1, 086, 030
7月	992, 160
8月	993, 750
9月	920, 180
10月	1, 081, 750
11月	1, 013, 770
12月	932, 210
1月	881, 680
2月	851, 320
3月	1, 062, 500
計	11, 597, 690

現況と今後の課題

地産地消をコンセプトにし、三木町役場と連携しながら、地域の憩いの場となるよう努めています。防災センター内のカフェのため、センターの利用者の方や役場の職員の方にリピーターとなっただけのようなメニュー展開や割引チケットの販売を行っています。職員の方や地域の方のアンケートをもとに、メニューの展開を行い、リピーターのお客さまも定着してきたため、今後も新規客の確保とリピーターのお客さまのさらなる定着を目指していきます。また、ランチタイム以外の時間帯の来客数が増えるよう、メニューの工夫や広報活動に努めていきます。高騰する原材料費のいかに削減するかを検討することで、純利益の向上に努めていきます。なお、土曜日の営業については、来客数が少ないことから、今後営業方法について検討していきます。また、利用者の増加に向け積極的に取り組んでいきます。

3 従たる事業所 カフェ・サン樹

場所 高松市春日町901番地の1

事業内容 カフェ・サン樹でのモーニング及びランチの接客及び調理
カフェ・サン樹の会計レジやパンの販売

「カフェ・サン樹」売り上げ

	喫茶・パン販売収入
4月	477,860
5月	461,120
6月	454,160
7月	436,480
8月	520,220
9月	481,380
10月	498,780
11月	472,270
12月	421,520
1月	445,390
2月	451,180
3月	509,440
計	5,629,800

現況と今後の課題

サン樹は、ワンコインランチを導入し、ドリンクチケットを配布するなど、地域に密着した店舗を前面に押し出すことで、リピーターのお客様が増加しています。また、お客様を通しての宣伝効果にもつながっています。今後も広報活動を行い、より多くの顧客の確保に努めていき、リピーターの増加を目指していきます。また、ランチタイム以外の時間帯の来客数が増えるよう、メニューの展開を行っていきます。高騰する原材料費のいかに削減するかを検討することで、純利益の向上に努めていきます。同時に、地域に貢献できる取り組みを検討します。

4 従たる事業所 カフェ・樹

場所 高松市番町1丁目10番35号 香川県社会福祉総合センター2階
事業内容 香川県社会福祉総合センター二階におけるカフェの営業
カフェにおける利用者への就労の場（接客・パッシング等）の提供
香川県社会福祉総合センター内への飲み物の配達

カフェ樹の売り上げ

	喫茶・パン収益
4月	590,300
5月	631,800
6月	709,100
7月	650,600
8月	611,245
9月	699,590
10月	758,760
11月	861,810
12月	554,430
1月	522,850
2月	563,780
3月	592,090
計	7,746,355

現況と今後の課題

良質な食材を使うことで、近隣にある多くの飲食店との差別化を図り、顧客の確保に努めています。また、セルフ方式にすることで、お客様を待たせないことも、セールスポイントとしています。準備数と販売数の差が大きくなることで原価率の高さにつながっています。貸し館の中のカフェであるため、貸し館の予定表をもとに、販売予測の精度を上げるとともに、既存客の維持と新規顧客の獲得に努めていきます。お客様のニーズに合った料理の提供に努め、他店との差別化も大切にしながらも、課題となっている高い原価率についてさらに数値化し、高騰する原材料費のいかに削減するかを検討することで、純利益の向上に努めていきます。また、同時に積極的な広報活動にも力を入れていきます。

VII 最後に

社会福祉法人を取り巻く環境は大きく変化しており、国の社会福祉法人に対する見方は厳しさを増しています。このような状況を踏まえ、法人の経営改善は急務となっております。法人制度改革に基づき、求められる社会福祉法人の使命を改めて認識して、経営基盤の確立と透明性の強化を図るとともに、より良い福祉サービスの提供は言うに及ばず、積極的に地域貢献して行くことが本法人の生き残る道と考えます。